

箕面ユネスコ協会 ニュースレター

発行 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟
箕面ユネスコ協会事務局
〒562-0013 箕面市坊島 4-5-20
みのおキューズモール2Fみのお市民活動
センター内 箕面ユネスコ協会（メ・ル・ック）
E-mail sakappmm@skyblue.ocn.ne.jp



◆ 目 次 ◆
○活動報告
○お知らせ

♪ホームページ折々に更新中!
「箕面ユネスコ協会」
で検索してください♡

U-Smile(地域協働型包括教育支援)研修会

- 2023年3月18日(土) 10時~16時
- 開催場所:【視察】認定NPO法人こどもの里/大阪市西成区萩之茶屋
【研修】らいとびあ21・南の家/箕面市

生活環境の中で困難な状況に置かれている子どもたちに何が必要なのか、子どもたちの背景にある社会課題についてとその課題解決にむけ、ユネスコ活動としてどのような支援ができるのかを考える研修会を、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟から助成を受け、箕面ユネスコ協会主催で開催しました。埼玉県 蓮田・白岡地方ユネスコ協会、奈良ユネスコ協会、大阪ユネスコ協会、の皆さんに参加していただきました。

○ 参加者の声

西成『こどもの里』では究極の児童福祉を見せて頂きました。懐かしい昭和を感じ、子ども同士の関わり・スタッフとの関係性も家族のようで、子どもの安全基地となり、差別・偏見を生まないための「子どもの夜回り」が印象的でした。「ありがとう」の言葉でお互いに大切な存在と気づく。子どもの自己肯定感upにもつながる。「子どもの貧困」連鎖を断ち切るためにも、「子どもの権利条約」を守り、子どもの最大の利益を生むためには地域・多職種連携が必須と改めて感じました。箕面での「北芝の教育事業について」わかりやすく説明いただいた。地域性捉え、しっかりと連携がとれていたことと、チームワークの良さも感じられた。「てらこや」のネーミングのセンスの良さと「まーぶ」システムも興味深かったです。読売新聞2022年11月28日で箕面市が自治体で子どものデータ集約システムを集約している記事を読んでいたため、今後子ども支援にどうつながっていくかも注目しています。2022年1月に当協会エリア内の白岡市の当時中学3年男子が自宅で暴行を受け亡くなるという痛ましい事件がありました。兄弟も多く、小5の時は蓮田市に住んでいた。そのころから、幼い兄弟のヤングケアラーで不登校だったと言います。このケースは希少性のあるものと思いましたが、地域性も配慮しながら、今後当協会に適した活動となるか理事会にて十分協議していきたいと思えます。「子ども食堂」については、利用者が少ないようなので、子ども限定にせず、地域の方と連携し、子どもと高齢者、家族等…地域で参加できるコミュニティづくりの提案、支援もよいかもしいです。『繋がり』この言葉が私の中で今回の研修で得たキーワードでした。これは、大人も子どもも誰もが人との繋がり、地域のつながりから自尊感情を育て「生きる力」を育てていく…とても学びの多い研修となりました。(埼玉県 蓮田・白岡地方ユネスコ協会 江原泰子さん)



○ 参加者の声

私自身、子どもたちが置かれている様々な状況について、報道や研究資料等を通じて目にすることはありましたが、実際に現地を訪問させていただいたことが、大変貴重な機会となりました。子どもたちのことを思い、信念を持って長年子どもの里の運営に取り組んでおられる荘保様のお話や、子どもたちが自分の家のようにくつろいでる子どもの里の様子を拝見し、居場所があるということが子どもはもちろん、保護者や地域の方にとってどれほど大切なことであるかということを感じさせていただきました。また、暮らしづくりネットワーク北芝様の活動について、子ども達の背景にある社会課題の解決に向け、地域の大人を上手に巻き込みながら取組を進めておられる様子や、子どもたちへの学習や生活の支援につながるよう、様々な角度から事業を進めておられる様子を学ばせていただきました。このような充実した研修に参加させていただいただけましたこと、私たちにできることは何か、これからも学ばせていただけたらと存じます。(奈良ユネスコ協会)



3.11「東日本大震災を忘れない」チャリティー物産展

3月11日(日) 11:00~13:00 みのお市民活動センター(みのおキューズモール2F) かやの三平橋で、チャリティー物産展を開催しました。箕面ユネスコ協会単独開催でしたが、市民活動フォーラムみのおさんの共催を頂き、アサンプション国際高等学校の生徒会の皆さんがトルコ・シリア大地震の募金を呼びかけ、チャパティ アルファ化米の炊き出しのデモ シストレーションとコラボし行うことができました。今後もこのような物産展を通して被災地を応援していきたいと思えます。気仙沼小野寺商店さん、気仙沼大島ヤマ



ヨ水産さんから取り寄せた物産や、気仙沼向洋高校のさんまの缶詰を並べ、被災から復興の現在までのストーリーをパネル展示して、市民のみなさんと3.11を忘れない思いを共有しました。



★チャパティ アルファ化米の炊き出しのデモ シストレーション★

チャリティー物産展と並行してチャパティ アルファ化米配布を行いました。このアルファ化米は箕面市の防災対策でされている食料の備蓄のローリングストックで、時間が迫った、たき出しタイプのものを効果的に活用してみてもどうかと、共催の市民活動フォーラムみのおと一緒に企画実施しました。効果的という点では、ただ単純に「これがアルファ化米ですよ～」と配るだけだったら「へえ～これが」とか「まあまあ美味しいね」で終わってしまいがちなので、炊き出しのデモンストレーションを行うことで「炊き出しタイプってどういうもの?」「どんなふうに作るの?」というような未知な部分を実際に見て知っていただいて、誰もがもしもの時に行動できるようにと考えました。また、デモンストレーションの間や出来上がったアルファ化米を配布しながら、このような防災食が箕面市のどこにどのように備蓄されているのかローリングストックのコツなどをお話して防災啓発を行いました。私自身も外炊き出しをしたのは初めての経験で、屋内で当たり前にある設備がなく、一番苦労したのはお湯を沸かして運ぶことでしたが、他にも必要なものがなにかにシミュレーションして準備しましたが、このように災害時では平常時とは違う状況下で何とかしていかなければならないということの大変さを改めて実感しました。トルコ・シリア大地震支援の募金箱も炊き出しのブースに設置し、炊き出し配布時にお声がけをかけて頂き、多くの募金と応援の気持ちをいただくことができました。(平井 みやこ)





2月3日には、1年間いっしょに活動したさまざまなシーンを振り返る時間を持たせて頂くことができました。その時間にみなさんから直接お預かりした書き損じはがきは、**125157円分**にもなりました。日本ユネスコ協会連盟を通し

て、世界の寺子屋の開設、運営に役立てられます。みなさん、ありがとうございました。

子どもたちががんばって集めて下さったはがきや切手がこんなにたくさん！



3校のみなさんそれぞれに書き損じはがき収集の感謝状をお渡ししました

●箕面市立萱野小学校 5年生のみなさんと●



稲の苗をうえたり、ネパールとオンライン授業をしたりと、たくさんの活動を共にしました。「…おむすびの日のこと教えてもらって、しんさいはとても悲しいことだけれど、うれしい気持ちをつくることもできるんだとわかりました。がんばっておうちの人に発表しました…」一人ひとりのみなさんから頂いた手紙の中の言葉です。

●箕面市立豊川北小学校 5年生のみなさんと●



マララさんのことや、ネパール寺子屋の先生とのことなどを振り返りました。最後に全員で、将来してみたいことなどを自由に交流しました。「いろいろな人にネパールのことを話したいです」「先生になって、世界の人にいろんなことを教えたいです」「ボランティアで命を守りたい」…世界を思う言葉がたくさん聞こえました。

●箕面市立東小学校 6年生のみなさんと●



「…みんなで分担をして、寺子屋運動を知ってもらうためのパネル、ポスター、リーフレット、ピラ、ボックスを作りました…支所やスーパー、薬局など、たくさんの所に回収ボックスをおいて、直接お願いできる所には声をかけて協力していただきました…世界中で学ぶ機会を待っている人のもとに届けていただきたいと思います…」子どもたちからの報告の言葉です。みなさん卒業おめでとうございます！

(大濱 淳子)

トルコ・シリア大地震への募金活動の報告

箕面ユネスコ協会は、2020年まで、みのお市民活動センターを運営する市民活動フォーラムみのおと東日本大震災被災地支援「3.11を忘れない！復興支援イベント」を共催してきましたが、今年度、2年ぶりに「3.11を忘れない！チャリティ物産展」を、かやのさんぺい橋を会場に開催することになりました。今回はトルコ・シリア大地震への募金活動を中心に、東北の復興をアピールする物産販売を展開。気仙沼向洋高校の生徒さんが作るサバの缶詰をチャリティ物産の中心に置いて、東北の物産すべてを2時間を待たずに売り切れるほど大人気でした。



チャリティ物産販売のブース隣では、市民活動フォーラムみのおが防災啓発の備蓄米デモンストレーションを行い100食を道行く人に振る舞いました。振る舞いでお渡しする際も募金箱を置いてアピールしました。

募金活動では、これまで協力してくれたアサンプション国際中学校高等学校の生徒会の皆さんが、今回も4人の生徒さんと先生、計5人の皆さんで募金箱を持って呼びかけしてくれました。箕面ユネスコ協会を中心に、市民活動フォーラムみのお、アサンプション国際中学校高等学校生徒会、この3団体のコラボで11時から13時の短い時間に8万円近くの募金を集めることができました。そして、嬉しいことに後日アサンプション国際中学校高等学校生徒会の皆さんが、昨年秋の学校行事で集めた募金10万円を箕面ユネスコ協会に託してくださいました。募金は箕面ユネスコ協会を通して日本ユネスコ協会連盟から現地で支援活動をするNPO法人ジャパン・プラットフォームに送らせて頂きました。多くの皆さんの温かいご協力、本当にありがとうございました。



アサンプション国際中学校高等学校生徒会、この3団体のコラボで11時から13時の短い時間に8万円近くの募金を集めることができました。そして、嬉しいことに後日アサンプション国際中学校高等学校生徒会の皆さんが、昨年秋の学校行事で集めた募金10万円を箕面ユネスコ協会に託してくださいました。募金は箕面ユネスコ協会を通して日本ユネスコ協会連盟から現地で支援活動をするNPO法人ジャパン・プラットフォームに送らせて頂きました。多くの皆さんの温かいご協力、本当にありがとうございました。

★募金活動の報告★

- イベント当日の募金 76,932円 ■ センター館内設置の募金箱 11,901円
- 手をつなごう！チャリティコンサートからの募金 8,073円
- アサンプション国際中学校高等学校生徒会より 100,000円 合計 196,906円 (須貝 昭子)

ニュースレターkirariにユースが登場！

支援活動から生まれたユースグループ「桃太郎と愉快的仲間たち」

東日本大震災を機に被災地支援の活動を立ち上げた箕面ユネスコ協会、気仙沼も復興支援を中心に各地の被災地を展開しつつユネスコ勲章が推奨する世界寺子屋運動を、出前授業の形で広く活動されています。その活動も10年を過ぎ、若い世代が少しずつ増えたのを機に学生の立場でできる活動をしたくと2年前に「桃太郎と愉快的仲間たち」を立ち上げました。

現在活動しているのは、岡山の真備でボランティアに行った経験があるハリス恵音さん、ユネスコの関係でカンボジアスタディーツアーに参加した川本実弥さん、ハリスさんに誘われた後輩の水野晴用さんの3人が中心で、ユースグループの精神的な存在である山田祐加さんが取りまとめを引き受けています。4人に共通しているのは、箕面ユネスコ協会メンバーが精力的な支援活動の中でもいきいきと交流しているそんな居心地の良さと、世代が違って仲間だと思えるような温かな会の雰囲気だといえます。

ユースグループの活動は、箕面ユネスコ協会の一員としてNPOフェスタなどイベントへの参加、カンボジアでの経験や英語という特技を生かした市内の小中学校での出前授業があります。ユース独自のイベントとしては、軽食と防災に関する冊子を携えてお家を訪問する出前子どもカフェを企画しました。



自分ができることは何か、楽しく参加するための企画をどうしたらいいか話し合い、山田さんが彼らの思いをまとめています。そんな彼らの目標は、ユース発信の企画をたくさん作れるようになること、箕面ユネスコを通じて得た被災地支援の経験やカンボジアやネパールなど海外での経験をぜひ他の人と共有して広げていきたいという願いからです。海外留学のために今年からハリスさんが日本からはなくなってしまうのですが、場所は違っても活動ができるのが箕面ユネスコの強み、仲間を増やしてユースの活動をもっと活発にしたい、地域の子どもたちと繋がる機会を増やしたい、それが彼らの願いです。

箕面ユネスコ協会 Information

活動の詳細はこちら
URL: <https://www.unesco.or.jp/minoo/>



みのお市民活動センターが発行しているニュースレター『kirari』。まちや社会のために活動するキラッと光る素敵な人や活動の情報を紹介されており、箕面ユネスコのユースのメンバーが登場しました。

助成金交付決定！U-Smileプログラム

箕面ユネスコ協会
会長 坂口 一夫 様

U-Smileプログラム 助成金交付決定通知書

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟
理事長 鈴木 信司
<公印欄>

日頃より箕面ユネスコ活動の推進にご尽力を賜り感謝申し上げます。
貴協会より申請のあった「U-Smile(地域協働型包括教育支援事業)助成金」について、助成金審査委員会にて決定となりましたので、その旨ご通知申し上げます。

1. 決定日
2023年3月20日
2. 事業名
箕面中部地域でひろがる学習の場、社会的つながりの場の構築事業
3. 助成金額
¥3,496,000(2023年度分)

地域協働型
包括教育支援事業
(テストラン)
に挑戦！